

平成26年度教育研究活動報告書

氏名	西嶋 亜美	所属	芸術文化学部美術学科
学位	修士（文学）	職位	講師
専門分野	西洋美術史（19世紀フランス美術）		
Ⅰ 教育活動			
本年度担当科目			
学部	美学講義（通年） 西洋美術史講義（通年） 博物館入門（前期） 博物館実習Ⅰ（後期） 博物館実習 事前事後学習（通年）		
大学院	芸術学特講（通年） 美術史特講（西洋）（通年）		
Ⅱ 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
（1）〈共著書〉西嶋亜美「19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージ—クールベ作《田園の恋人》とワルツの図像—」、伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、2014年以降刊行予定*（査読あり）。			
（2）〈論文〉西嶋亜美「ドラクロワ作『墓地のハムレットとホレーシオ』諸作品をめぐって—演劇の豊饒さから絵画独自の効果へ—」、『美術史』第172冊、2012年、173-191頁（査読あり）			
（3）〈論文〉西嶋亜美「ドラクロワによる『挿絵』連作《ファウスト》—複数の着想源と技法革新の統合の試み—」、『京都美学美術史学』第9号、2010年、141-172頁（査読あり）			
（4）〈学会発表〉Ami NISHIJIMA "L'emploi des théories littéraires et artistiques dans la représentation du monde antique autour de Delacroix.", Ecole de Printemps, 10e édition Art et Savoir, 2012/5/18, Centre Allemand de l' Histoire de l' Art, Paris.			
（5）〈論文〉西嶋亜美「ドラクロワによる二点の《ジャヴールとハッサンの闘い》——戦闘イメージの起源と北アフリカ旅行の意義をめぐる考察——」『日仏美術学会会報』第34号平成27年に掲載予定（査読あり）			
本年度を含む過去3年間の研究業績			
（1）〈共著書〉西嶋亜美「19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージ—クールベ作《田園の恋人》とワルツの図像—」、伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、2014年以降刊行予定*（査読あり）。			
（2）〈論文〉西嶋亜美「ドラクロワによる二点の《ジャヴールとハッサンの闘い》——戦闘イメージの起源と北アフリカ旅行の意義をめぐる考察——」『日仏美術学会会報』第34号平成27年に掲載予定（査読あり）			
（3）〈学会発表〉西嶋亜美「ドラクロワの著述にみる文学と絵画」広島芸術学会第28回総会・大会（2014年7月27日、於ひろしま美術館）、50分間、レジュメ審査あり			
（4）〈論文〉西嶋亜美「ドラクロワ作《トラヤヌス帝の正義》——知的文化的潮流から絵画へ——」『鹿島美術研究年報』別冊、平成26年、153-163頁（査読なし）			
（5）〈学会発表〉西嶋亜美「ウジェーヌ・ドラクロワによるバイロン作『邪宗徒』諸作品の再考」日仏美術学会第130回例会（平成26年2月8日、於東京日仏会館）50分。			
（6）〈学会発表〉Ami NISHIJIMA "L'emploi des théories littéraires et artistiques dans la représentation du monde antique autour de Delacroix.", Ecole de Printemps, 10e édition Art et Savoir, 2012/5/18, Centre Allemand de l' Histoire de l' Art, Paris.			
（7）〈論文〉西嶋亜美「ドラクロワ作『墓地のハムレットとホレーシオ』諸作品をめぐって—演劇の豊饒さから絵画独自の効果へ—」、『美術史』第172冊、2012年、173-191頁（査読あり）			
（8）〈学会発表〉西嶋亜美「ドラクロワ作《ヴェネツィア総督マリノ・ファリエロの処刑》—絵画と演劇における史実の再現の様相—」、2011年度京都美学美術史学研究大会（2011年12月17日、於京都大学文学部）、60分間（レジュメ審査なし）			
現在の研究テーマ（3つまで）			
（1）ウジェーヌ・ドラクロワの歴史画・物語画における文学と絵画、演劇の関係に関する研究			
（2）19世紀英仏の画家によるオリエント旅行の実態と制作上の意義の研究			
研究テーマの進捗状況	（1）ドラクロワの物語画と文学の研究については、2013年度に開始した二つの作品調査を、それぞれ査読論文一本と報告書一本にまとめることが出来た。現在、これらを2012, 2010年に発表した二本の論文とともに加筆・修正したうえで一つの研究としてまとめて学位請求論文を提出すべく、序文を執筆している。（2）のオリエンタリズム研究は、（1）と関連するテーマから着手したところであり、来年度以降こちらに重点を置く所存である。		
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績）			
所属学会・所属団体 役職等			
美術史学会、美学会、日仏美術学会、広島芸術学会			